

平成21年 8月14日

平成19年(ワ)第1904号 第4279号
ボランティア基金返還等請求事件関わる陳述書

大阪地方裁判所民事第2部 御中

この陳述書の内容は事実と相違ありません。

申立人 安田倫子 印

1. 林=AAとのつきあいの経緯

私がアーク・エンジェルズ(以下AAと称す)の一員となったのは、AA発足前から林妻(以下統括と称す)との個人的な付き合いの延長線上にあります。

出会いは、2005年3月に、ネット上の署名を集めている統括運営の個人サイトの記事を目にし、同サイトのBBSに書き込みをしたのが、知り合うきっかけでした。

以降、レスキュー活動について数回、ダイレクトメールで話す機会はありましたが、それ以上のことはなく月日は過ぎました。

初めてAAの活動に参加し、林夫妻に会ったのは、2006年3月12日の「ヨーキーレスキュー譲渡会」でした。この体験で、AAの活動に感銘を受け、後に2度の譲渡会に参加するなどして、林夫妻及びスタッフの方々との親交を深めていきました。

活動に参加する度、広島から参加しているのは私一人であった為、あだ名としてスタッフから冗談のように「広島支部長」と呼ばれるようになりました。ひろしまドッグバーク(以下DPと称す)レスキューが始まった時には、広島からのボランティア(以下ボラと称す)やスタッフが他にいなかった事から、あだ名がそのまま適用された形で、広島支部長という立場になっていきました。

2. ひろしまDPでの関与の形態

しかし理事としての役割・位置・業務内容の定義というものは全くありませんでした。支部長としての位置付け・役割の定義はなく、また、何の決定権もありませんでした。

代表や統括の指示に従い、言われた事をこなすだけでした。看護師という不規則な勤務体制の仕事を持っている為、連日DPに詰めているわけでもなく、行える事もDPを訪れた日によって違っていました。従って、その日に一体何をすれば良いのか解らず、右往左往する事もしばしばでした。

そのような私の働きの悪さに、林代表より強くお叱りを受けた日もありました。

3. ひろしまDPでの活動内容

①2006年9月17日前後の動き

9 / 17は里親希望者になりすましてDPに潜入し、特に状態の悪い何頭かの犬を引き出しました。その計画の指示は、前後の連絡内容など含め、具体的にAAからありました。電話や参考のメールの通り、伝達された内容を忠実に守り行動を取りました。

通報者やDPの犬の持ち主である武田氏と電話連絡する中、AAに全てを報告し、指示を得て動いていました。

武田氏へのアクセスは、まずはフードの支給を電話にて申し出ました。継いでレスキューを要するなら、全頭引き上げが可能な旨を伝える様AAから指示を受け、その通りに武田氏へ伝達しました。

通報者へは、第一陣としての潜入計画や、広島市動物管理センターへの話し合いに際し、市民としての意思表示方法（プラカード作成）等、指示に従って伝達しました。

私には、レスキューに関して決定権などあるはずもなく、対応方法のノウハウもない為、全て指示にて動いていたのが実情です。主な仕事は、広島と大阪の伝達役でした。

②2006年9月26日以降の活動内容

DPでの活動内容・役割は2でも述べた通り、仕事の合間をぬって通い、その日その日で目先の出来る事を行う状態でした。

主な内容は、電話対応や事務所の掃除等でした。継続して行う役割はありませんでした。10月21日以降の里親譲渡会では、主として面談・譲渡を担当しました。

初日に頭数確認を行いました。私はA犬舎の頭数を数え、統括に報告しましたが、それぞれが各犬舎に分かれて頭数確認を行った為に、総数は定かではありませんでした。何度か総数確認の連絡をしましたが、「まだ計算できてない。」との返答ばかりで、明確な回答は得られませんでした。

そもそも初回カウントで語られた480頭との数字そのものが、アバウトな数字だったと記憶しています。それ以降、頭数確認に関与しておらず、後にアバウト480頭から580頭に増えた原因は解りません。

数日後に聞いた、頭数確認の結果が580頭であった事については、すでにその時、現場は大混乱であった為、気に止める余裕すらありませんでした。

しかし、作成が進むリストを目にする度、数の増える犬種もあり、リスト化される前に団体譲渡された単犬種や、初回大阪に引き揚げた頭数を入れてなかった為、後からその数を足していた記憶が、微かに蘇って来ています。ですが、定かではありません。

私個人のブログには、最初頭数は455頭であると記載しましたが、これも混乱時に算出された数字で、公式に出すべきではない数字を、安易な気持ちで書き込んだのも事実です。以降、私の個人ブログの記述に対するクレームが、AA大阪に届くようになり、代表・統括から、団体の一員としての自覚を持つようにとの注意を受けました。

直後より、広島支部長としてのブログではない旨を掲載し、混同を防ぐ為にも、詳細な事は載せない方が良いとの判断から、頭数を含め、意図的に詳細は伏せる事にしていました。

③ 譲渡会決定の経緯

いつ、どこで、どのようにして、10月21日・22日が譲渡会として決定したのかは不明です。いきなり決定を聞かされたのみで、方向性や方針は、決定した後に代表・統括からの命令形態で伝達されるのみでした。

理事という立場ではありましたが、そのような相談を持ちかけられる事もなく、決定事項を伝達されるのみでした。

④ 子犬や稀少犬が消えたという疑惑

初日、隔離室として使用していた部屋に、仔犬は数十頭いました。狭いケージの中、中型犬クラスの母犬に踏まれた、生後1週間程度の仔犬の遺体もあり、悲惨な状況でした。

その後、パピー(仔犬のこと以下パピーと称す)担当として主に2組の大藤・磯根夫婦が専門ボラに入り、パピー達の環境は改善されました。

ジャックラッセルの妊娠疑惑は、初日に入った鳴戸獣医師が、目視で数頭の犬が妊娠していると指摘していたのは記憶にあります。その数日後、鎌倉獣医師もまた、メディアの取材を受けながら目視にて、妊娠を指摘しました。その為、私安田とスタッフの山辺・ボラの五十嵐さんとで、産室準備を始め、妊娠の可能性のある犬の隔離体制を整えようとなりました。

しかし、10日以内に肥満との診断にて、妊娠疑惑は解消しています。診察した獣医師の名称は思い出せませんが、お腹の大きい犬は全て診察して戴き、妊娠していないとの診断を得ました。

そのジャックラッセルの診察介助には、山辺・五十嵐・安田・その他2～3人のボラが付き、診断を確認しています。

同日、パピー室担当の磯根氏から、「パピー室のチワワのお腹が大きい。妊娠しているのでは？」との相談を受け、同じ獣医師に診察してもらい、肥満だと判明した事実があります。磯根氏がその診察介助に付いていた為、経緯や獣医師が誰かも知っていると思います。それ以外の仔犬に関する事は、全くわかりません。

また、その他に消えた犬達はいたのかという話もありましたが、そのような認識はありません。消えたと噂される日本に数頭しかいない稀少犬種であるブービエ・デ・フランダースは、譲渡リストにて大阪支部長の山口氏に譲渡されている事を確認しています。

⑤ 犬達への医療行為について

全頭、医療行為を行う筈で臨んだレスキューであると、信じて疑わずに日々を過ごしました。ですが、現実には獣医師の受け入れの問題も発生し、思うように医療の提供が進まなかったのも事実です。

現地に自主的にボラでおこしくくださった獣医師や、獣医師会の介入により、最低限の

医療行為は全頭に行われていたと思います。広島獣医師会の協力と、個人的にご助力戴いた獣医師により、人畜感染症であるフィラリア・腸内寄生虫への対応は、全頭行っています。

しかし、その他の個別な医療行為は進まず、治療や入院の必要な犬に対して、思うように診察に出せない、進まない悩みもあり、スタッフの間で頻繁に対応策の話をしていました。ここにも、獣医師側の受け皿の問題がありました。

現地で行える治療として、全頭分の薬を提供くださった獣医師の助けは偉大でしたが、犬の個体により症状も様々でしたので、十分な治療とまではいきませんでした。個別対応可能な、積極的且迅速な治療を望む気持ちは強かったです。

また、異常を認めた犬は、即刻統括に報告・相談していましたが、殆どの場合、「様子見れば？」との返答が聞かれ、そのような様子観察指示が後手となり、手遅れになった犬がいるのも事実です。

それに対しては、医療担当スタッフである山辺氏と「もう躊躇せずに病院搬送しよう。事後報告にしよう。」と話していました。

このような状況下、積極的な治療が進まないまま、「**全頭治療が必要です。医療費がかかります。赤字です。**」と銘打って寄付金を募り続けている事に、次第に違和感を持ちました。

この思いが膨れ上がり、『**このままでは寄付金詐欺と言われる**』との焦りを感じたのも事実で、その状況を大阪のスタッフに相談していました。

また、里親決定に際しての、金持ち優先的な判断にも、違和感を持つようになりました。

このような状況から、犬の幸せの価値観に相違を感じる場面が増え、本当に犬の事を考えているのか？との疑問も抱くようになりました。

4. レスキューの必要経費と対応

このDPレスキューでは、犬の頭数も頭数でしたし、その悲惨な状況からも、莫大なお金が必要になると覚悟して挑みました。

①口座振り込みの様子

口座に関しては、代表・統括2人のみが知るだけで、口座の中にいくら入金されているのかは全くわかりませんでした。しかし、連日鳴り止まない、寄付金振込み先の問い合わせ電話の数、DP目指して、坂が支援物資を運ぶ宅急便で大渋滞を起こしていた光景から察するに、相当額の寄付が集まっている事は、容易に想像ついていました。

②募金箱の様子

募金箱は2つありました。一つはDPの入り口に設置された、透明なプラスチックのアンケート入れのような物です。これは、ボラが毎朝設置し、帰りには事務所に戻して

いました。

10月の譲渡会も終わった11月半ば頃から、AAが事務所にしていた所には、目測70リットル入りのポリバケツのような容器で、蓋に穴を開けた形の募金入れが、置かれていました。いつまでも放置してあり、金額を数える気配はありませんでした。

その中には、バケツ2/3くらいまで、硬貨はもちろん、千円・一万円というお札も多く入っているのが見えました。総額がいくら入っていたのかは知りません。

管理は、統括が行っていたと思います。

③現金書留の様子

初期の頃に数回、現金書留が届いているのは見ていますが、中盤以降は見えていないのでわかりません。ただ、その初期の頃は、大阪事務所にも、連日東で現金書留が届いていたとの話しは、大阪スタッフから聞いています。

また、荷物に現金を同封している事もあり、初期の頃には数回目撃しています。よって、現金での支援金も、相当額DPには届けられているのだという認識はあります。しかしこれらの総額がいくらであるのかは、全て統括に届けられていましたのでわかりません。

⑥ 物資の様子

物資がDPの下の倉庫に移動してからは、頻繁に支援物資の姿を見る事はありませんでした。しかし、必要物資を取りに倉庫へ向かった際、その多さに非常に驚き、ご支援戴いた方々への感謝の思いが溢れました。物資の管理は、スタッフの藤井副代表や唐島氏が行い、対応していました。

前述したように、DPを目指して、つづらおりの長い坂いっばいに連なる宅急便の大型トラックの渋滞が連日でしたし、その配達も途切れる事はありませんでした。その様子から、想像を絶する量の支援物資が集まっていたという認識はあります。

トラック何台分にも上る支援物資については、DPに必要な物資を募っており、私的に必要な物を集めていたとは思っていません。

実際、物資は里親になられた方には「必要な品は、いくらでもお持ち帰りください。」との案内をしていました。ですが、中には「是非犬に使ってください。」と遠慮なさる里親さんもおられました。出し惜しみした事は一度もありませんが、膨大な支援物資故、余るのは仕方ないのではとの思いでした。

またそんな中で、ボラが物資を隠匿したり、同包された現金をごまかしたり着服しているとの話が出始めました。私は現場を目撃していませんが、他のボラからの目撃情報や報告・相談を受けた事があります。

その他、AA統括による毎晩の支援物資漁りについても耳にしましたが、自分は統括が必要な物資を取りに行っていると言う認識でいた為、注意深く見ておらず、事実関係はわかりません。

⑦ 理事としての役割・報酬

私個人としては、誓って1円たりとも報酬は頂いておりません。むしろ、自腹を切っ
てレスキューに参加していましたし、活動参加資金を得る為に、夜勤の回数を増やして
対応していました。その支出分はボラだと思い、AAへ要求もしていません。

多くのスタッフが、それが当然との認識で活動参加していました。代表や統括のスタ
ンスである、『獣医師達であれ、ボラ達であれ、無償で活動参加するのが当たり前』あ
りきの元で、全てが進んでいたように思います。

しかし、スタッフの中には、報酬をもらっている人もいると知り、大変驚きました。
藤井副代表は、最初から有償で広島に行っていると大阪スタッフから聞いた時には、驚
きましたが、初めからその契約で来ているのなら仕方ないと思っていました。

また、関氏が、ご家族の手術の為に一旦大阪に帰る事になった時、お見舞い金として
20万円包んだとの話しを、統括本人から聞きました。でもその時は、遠く離れた広島
の地に詰め、これだけ活動参加しているのだから、当然の統括の心遣いであるという印
象でした。

しかし、大阪からDPに戻って来た関氏が、高価な一丸レフのデジカメを購入して来
たのを見て、そのお金はどこから出て来たのかを疑う声はありました。他にも、物資や
犬の搬送を行う条件で、関氏に車を1台購入したと、統括から聞きました。

関氏は、統括の代わりにネットオークションも担当しており、支援物資を売っている
との話しも聞いていましたので、一連の待遇は、報償の意味もあつたのではないかと感
じていました。

しかしその後、関氏のご主人が、AAのグッズデザインをボラとして提供したはずが、
AAを辞める時になって、そのデザイン料金を要求した為、代表との間で問題となり、
購入した車は犬の搬送目的でもあつた為、返却を求め取り戻したと聞いています。後に、
その車は、広島スタッフ理事の倉住氏に統括が130万円で転売し、倉住氏が所有して
いました。

AAの資金管理・公表に対して疑問を感じてはいましたが、確証もなく、知らない分
野も多くて、口出しも事実確認も出来なかったのが実情です。

他のスタッフは、AA内部では次のような役割であつたと認識しています。

- 関氏は、代表と統括に最も近い存在であり、全てを把握しているのではないかと
思っています。
- 藤井副代表は、物資や買出し面の詳細は知っていたと思います。
- 山辺氏は、医療担当を真面目に担い、善意で活動していたと思います。私と同類で、
詳細は知らされていなかったと思います。
- 唐島氏は、物資や犬の長距離搬送等を担っていましたが、やはり指示通りに動いた
だけで、詳細は知らされない存在だったと思います。

その他の役割・報償の程度、有無はわかりません。

⑧ AAがDPにいる時の生活の様子

夕食時には必ず飲酒をし、沢山のお酒の殻がゴミに出されていました。

買出しは藤井副代表が担当し、調理は統括と藤井副代表とで担当していました。初期の頃は、殆ど食べる物も無く過ごしていましたが、パーク敷地内で生活するようになってからは、時には豪勢な食事もしていたようです。しかし、その毎日の買出しのお金がどこから出ているのかはわかりません。

代表が3つの会社の経営者であるという話や、DPに入る前に自分の外車を売って資金を作って来たと言う話を聞いていましたので、そこから出費していると思っていました。しかし、事実はわかりません。

AAにおいては全て、代表・統括のイエスマンでなければいけないという状況で、問い質す行為は切り捨てに値し、排除されていくボラやスタッフの姿を目の当りにして来ました。なんとしてもレスキューを成功させたかった私は、この場を追われるわけにはいかないとの思いが強く、その結果、不信感を抱きつつも何も問い質す事ができず、詳細不明な部分が多かったのも事実です。

また、林夫妻は自らの飼い犬達をDPに連れて来ていましたが、その糞の始末もボラ任せで、指摘があるまで自ら回収する事はなく、パソコンに向かっている姿が目立ちました。

代表はテレビ取材などがあると、犬舎に向かっていたようですが、それ以外で事務所から外に出る事は、殆どありませんでした。

5. AAに不信感を持ち出した契機と内容

①東京の学生達との譲渡会・大阪スタッフの切り捨て

11月末、広島の犬達を東京に移動し、そこで譲渡会を行うとの計画を知り、愕然としました。全く聞いておらず、ネットで知りました。知った後確認し、決定事項になっていた事にさらに驚きました。

その為か、大阪の一時預かりから強制広島連れ戻しが行われる事になり、更に衝撃を受けました。やってはいけない行為だと思ったからです。現場で何も言えない私の立場が苦しく、その件については大阪スタッフと、頻繁にメールでやり取りを行いました。

しかし、預かりをしている各ご家庭への初回の連絡は、全て私が行う事になりました。強制連れ戻しには憤りを感じていたものの、指示に従うしかなく、電話連絡をしなければなりませんでした。

後にその東京での譲渡会は、タレントの杉本彩さんや川島尚美さんのチャリティー参加や、ムツゴロウ王国の協力があるとの話を聞き、目的に疑問を感じました。

幸いにも、ネットでの批判が高まった事で、その譲渡会が中止になった時は、ほっとしました。

犬の連れ戻しに関しては、大阪スタッフが内容証明で反対の意を代表に伝えたのですが、「俺の考えること、やることに付いて来られないのなら、辞めても構わない。」と、

いとも簡単に、それまで身を粉にして助力して来たスタッフを切り捨てました。これに対して、憤りを感じると同時に、強い恐怖心を抱きました。人の力や心を大事に出来ない人達だと感じ、さらに不信感が募り始めました。

②ボランティアさん達との経緯

林夫妻の考え方として、お金が減ることは極力避けたい、ボラも獣医師も無償奉仕当たり前的な言動が目立ちました。支援金は十分に集まっていると思われるのに、HPで謳っている事と実際にやっている事のギャップに苦しみました。

ですが、その時の私は、毎日通うわけでもなく、何も知らされない、何も問い質せない、排除を恐れる弱い立場故、疑問に対する確証も得られず、ボラから相談された事に対する受け答えも、憶測が多くいい加減なものでした。排除されない為には、その場で出来る事をやるしかないという諦めの気持ちもあり、一步が踏み出せないままボラ達と接していました。

しかし、林夫妻に関しては、人に対しての扱いが酷く、気分で決定する事の多さ、人を大事にしない事に罪悪感もない様子が見て取れ、犬を救う前に人としての資質に問題を感じていました。

DP内での様子を伝えるボラのブログには、それまで数多くのDPの犬の様子が伝えられていたのですが、AAにより強制的に犬の写真撮影が禁止された事がありました。どのような経緯でその様な判断を下したのかは、ネットで知るような状況でしたのでわかりません。

ですが、AAからの情報が少ない中、ボラ達からでも広く広報されれば、譲渡も早まるであろうし、残る犬ほど残るだけの理由も抱えている為、お世話をする方からの的確な情報提供が、里親希望者の背中を押す形になる事もあったであろうに、何故情報を閉じてしまわせるのか、いぶかしく思いました。

マスコミからも、内部告発を促す動きがありました。同時期、一部のボラ達は、マスコミと連携し動き出していた事もあったと思います。その様な動きの中で、私に対する要求が増すに連れ、私のキャパを超えてしまいました。これは私の精神鍛錬が足りなかった為です。

しかし過剰に期待されていた事に、戸惑いが隠せなくなってしまったのも事実です。最終的には、暴走を始めたボラに対し、恐怖心すら感じるようになりました。AAのスタッフである以上、自分や自分の飼い犬を守る為の手段でもあると決断し、ボラから離れる事にしました。

③シェルター疑惑

11月下旬頃だったと思います。神戸や大阪の不動産屋からの物件に関するFAXが目につくようになり、シェルターの場所を探しているのではないかと感じた為、統括に確認しました。

すると、いとも簡単にその事実を認め、物件の下見に大阪へ戻る日程を決定する等、現実味を帯びており、支援金をシェルター資金に回す為、D Pの犬達にお金をかけない方法を踏んで来たのではないかとの疑問が深まりました。

ですが、林夫妻の行動は全てブラックボックスの中という印象で、終始私には事後報告や決定事項のみが伝えられる状態でしたので、実際の収支をどのようにして来たのかはわかりません。その分、憶測が増し不信感は募りました。

④犬舎移動の多さ

D Pでは、犬舎の場所が変わる事が多くありました。数日間通えず、久方ぶりに訪れた際、犬舎の位置が変わっている事に驚く事が多々ありました。何の為に移動するのか理解不能で、頭を捻った事が幾度もあります。

しかしながら、連日通えない身としては、その方向で流れ出している事に今更口を出す訳にも行かず、成り行きを見守るしかありませんでした。

⑥その後の無計画なレスキュー

広島撤退後のA Aとの関係は、広島からの依頼には、私に対応するようになっていきました。広島の方から滋賀の犬に里親希望のアンケートが入れば、私が面談に行き、我家での『一時預かり期間』を経て譲渡していました。1頭でも多く、里親に迎えられるようにと願い、助力も努力も惜しみませんでした。

しかし、A Aの評判は悪く苦勞しました。謝罪して回る日々でしたが、私には物証もなく、詳細不明な事が多かった為、責められる事で私が謝罪した内容は、世間を混乱させ、詐欺・恐喝事件に発展し、多くの方に不快な思いを与えてしまった事に対してです。

人手不足の滋賀で、100頭にも及ぶ犬達を、適正飼養する事は難しいとの思いもありました。明らかに物理的に無理な事と悟っていました。

その為、1頭でも多く、里親のもとに出せるものなら出したいと感じていました。しかしそう感じながらも、A Aの運営体制は、頭数が減ればまた次々入れて来るのは必須で、エンドレスとの葛藤もありました。

5. A Aの仕事を辞めなかった理由

D P撤退後、何故こんな事になってしまったのだろうとの、憤りや悲しみが大半を占めていました。D Pの中の1頭、チャイニーズグレステッドドックの「輪音」を迎えた事により、この子が今生きている意味を考えるようになりました。この名の由来は、これだけ荒れたレスキュー活動です。人と人とのつながり、輪をもう一度繋ぐ音になりますようにとの願いを込めて命名しました。

その思いを伝える為、自らの荒れ荒んだブログも閉じず、「輪音」が生きている事を伝え続けよう、いつの日にか、心が離れて言ってしまった人達と和解できますようにとの思いでした。

「輪音」が生きて、今私の大切な娘でいてくれる事は、D Pの門を開いたA Aのお陰でもあるとの思いがあったのも事実です。

D P事件は、個人や愛護団体が、それぞれの立場でレスキューしようと努力していたと思います。がしかし、実際に何とか出来ていたのかと考えると、どこの誰も全頭救出には至らなかったのではないかと思います。

A Aに対し、憤りを感じる部分は確かにあったのですが、そういう意味では感謝もしていました。

その後大阪に移送した18頭を巡り、林氏と川北氏の間で所有権確認裁判事件も勃発し、D P犬達の先が見えなくなった事も、脱退しなかった理由の1つです。あの状態で、A Aを去る事は出来ませんでした。

また、逆に守るべき命を抱えてしまったが為、余計にA Aへの疑問を口にする事も、離れる事も出来なくなったのも事実です。

自分の身と輪音を守る為の、最悪の中の最善な決断でもありました。女一人になり、広島で暮らしていく自信はなかったのです。

ボラへの恐怖、大前氏への恐怖、武田氏への恐怖、ネット族への恐怖、そしてA Aへの恐怖がありました。一人になるのが恐く、A Aを隠れ蓑にしていたように思います。

6. A Aの理事を辞めた理由

2008年5月も終わりかけ、理事会のお知らせが郵送されて来ました。その議題の中に、「任期満了に伴い、理事の選任」とありました。それを目にし、今辞めなければA Aから離れる機会はないと思いました。

D P事件以降、胸が痛み続けていました。責められ続ける事に胸が痛み、慰められる事にも胸が痛み続けました。私の行いで傷付いた方々が沢山いる、その事実だけで罪悪を持ち続けていました。同時に、責められ続ける事に疲れてしまいました。

私はD P犬が全頭譲渡され、幸せになる結果を得るまでは、関わり続けると決心していましたが、この場にいる限り、心は病み続け、前には進めないと悟り、退任・脱退届けを郵送しました。

また、D P事件により、職場にも多大なるご迷惑をかけ続けました。仕事に集中し、迷惑かけた分を取り戻さなければいけないとの思いも抱えて過ごしていた為、これを機に団体を辞め、保護活動からも身を引く事を決意しました。

今現在A Aを恐れる理由は、林夫妻は彼らの意思に反すると、里親から譲渡した犬を取り上げることがあります。

不幸な境遇にいた犬達を、再びシェルター生活に戻すばかりか、愛情を持って育ててくれている里親に、ご迷惑がかかるのではないかという事も心配でした。

7. 所感・ならびに反省

2008年3月に、D P慰霊祭が行われました。私はそれに参列しませんでした。多

くの方々の善意を裏切るAAにスタッフとして存在し、裏切り者とされた者が、どの面を下げて参列出来るのかと思ったからです。

また、そこにいたとしても、私に向けられる多くの憎悪の目から、身に危険が及ぶかもしれないとの恐怖心もありました。私に出来る償いは、我が家に連れ帰ったDP犬のお骨に、毎朝手を合わせて過ごす事でした。現在そのお骨は、私と共に広島を離れさせるわけには行かないと思い、引越しの前日、広島ペット霊苑の供養塔に納めてもらい、供養をお願いしました。

撤退後の残存物である、多くの人々の思いがこもった千羽鶴等に思いをはせるにつけ、DPにボランティアでご助力戴いた方々や、支援物資や支援金を送ってくださった方々には、頭を下げる事しか出来ないとの思いです。

世間から裏切り者とされた私には、何も云う資格はないと感じています。

私の発信した情報、そして取った言動により、多くの人々が振り回され傷付き、またその後のボランティア活動に、多くの方々が深い不信感を抱くようになってしまった事実は否めません。

ですが、その当時は、私もAAを信じて疑いもしませんでした。まさか、レスキュー現場でこのような事が起きるなどと、想像して行動したわけでもなく、全ての人々の善意を信じて、全ての犬を助けたいがために、無我夢中でした。これは事実です。

当初の現場では、不信感を抱くような暇もなく、めまぐるしく動く状況に翻弄されていたのも現実です。しかし、少しずつ実態が見え出し、林夫婦の実態に気付き出した時には、もう引き返せない自分がいました。それらに気付きながらも、自分は踏み出す勇気がありませんでした。その結果、「犬のために頑張る」自分が、犬達の苦しみを助長させる加担者になっていた事に気付き、自らを責めて過ごす3年間と言う月日を数えました。

これらの行動が、自分の心の弱さであり、優柔不断な結果から、後々より傷を大きくしてしまったことは否めません。

AAに対し、疑問を抱いたその時々、勇気を持って立ち向かってさえいけば、傷付く人々が、これ程までにはならなかったとの後悔の思いで一杯です。

多くの傷付いた方々には、謝罪の気持ちをこの法廷の場に立つことで、少しでも償えたらとの思いです。

8. 判決に臨むこと

人は、1円の「お金」を手にするまでに、どれだけの労働力を引き換えにしているのでしょうか。簡単に得る事は出来ません。寄付金として寄せられた1円1円には、人々の汗や涙や血、人の生き死に、喜びも幸福も悲しみも苦しきも、人が生き抜く全てが染み込んでいます。あの悲惨な犬達、DP犬の姿を目にした人々は、そのような尊いお金を、惜しみなく分け与えてくださいました。

そのお金がどれだけ重いものか、どれだけの責務を持って届けられたものなのかを、

真摯に感じ受ける心があれば、このような結末は迎えていなかったと思います。

林夫妻は、「何も悪い事はしていない」と発言します。

否、しています。人々の心をととも傷付けました。多くの人や犬を巻き込み、信頼を裏切り、傷付けてしまいました。それは紛れもない事実です。

林夫妻がこれを「悪」と思えないなら、林夫妻がこれまで述べて来た言葉、出して来た物、表に映る物全てが、悪の基準のない偽りに思えます。

人と人との繋がりの中にある、悪の基準を得て戴きたいと思います。自分達の欲望を満たす為、利用できるものは全て利用しようとして来た事実があるのなら、その自らの心情を内外に認め、分け与えてもらえた真心を感じ受けとれる人となり、人が生き抜く全てが染み込んだお金の意味を知り、受け取った責任を反省・謝罪できるよう、厳重な判決を望みます。